

「『ダメ。ゼッタイ。』普及運動」における

街頭キャンペーン・厚生労働大臣メッセージ

今日、大麻や覚醒剤をはじめとした薬物の乱用が深刻な社会問題となっています。

これらの薬物は一度でも乱用すると、自分の意思で止めることが極めて難しくなるおそれがあります。自らの体や心をむしばむだけでなく、家族や友人などの周囲の人々にも大きな影響を与えるため、絶対に使用してはいけません。

令和6年の大麻の検挙者数は、前年に続いて六千人を超え、覚醒剤の検挙者数と並び、依然として非常に高い水準で推移しています。中でも、大麻の検挙者数のうち、七割以上を三十歳未満の若年層が占めており、若年層による大麻の乱用に歯止めがきかない状況です。

SNS等では、「大麻には依存性は一切なく、身体に害がないから安全」といった誤った情報や、大麻の密売を持ちかけるような投稿が依然として多く見受けられます。

しかし、大麻は決して安全ではなく、心身に影響を及ぼすものです。特に若年期から大麻を乱用した場合、脳への障害や依存の危険性を高めることなどが懸念されています。

薬物乱用から自分自身を守るためには、どのような人から誘われても、立ち止まって冷静に考えること、そして何よりも、きっぱりと断ることが大切です。

併せて、自分の身の周りに、薬物で悩んでいる方がいたら、適切な支援を受けることができるように、支え合える社会づくりも必要です。

皆様一人ひとりが、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、薬物乱用防止の輪を大きく広げていただき、薬物乱用の無い社会を共に作っていきましょう。

令和七年六月二十日

厚生労働大臣 福岡 資麿